

市立

いちかわ

自然博物館だより

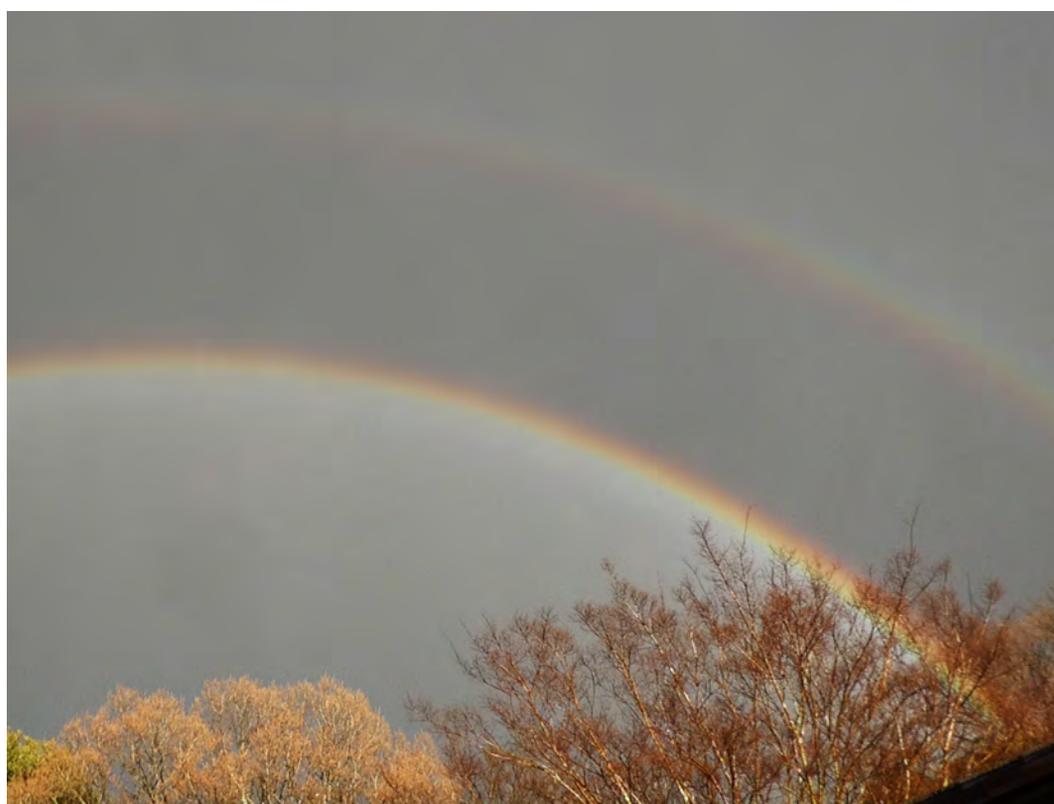
令和6年(2024年)

4-5月号

(通巻 211号)

2024年度

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

二重の虹

今年の春分の日、真西に沈む太陽の光を受け、真東に二重の虹が現れました。黒雲を背景に、副虹もよく見えました。

P1 ☀️ いきもの写真館  
二重の虹(今回は気象)

P2 / 3 ☀️ 肌感覚の気象の記録-1  
肌感覚の4月と5月

P4 ☀️ 花を透明にして観る  
コスミレ

P5 ☀️ 長田谷津のとりたち  
シメ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから  
令和の春の植物景色

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題  
マアナゴの餌やり

P7 ☀️ わたしの観察ノート  
1～2月頃の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。





# 肌感覚の気象の記録



自然博物館では、日々の自然観察の記録を「自然観察週報」としてまとめ、webサイトで公開しています。自然観察週報には、週単位の気象の記録もあります。数値ではなく、自分たちが体験した気象を文字で書いた記録です。科学的とは言えませんが、生活実感には近い内容になっています。

## 肌感覚の4月

4月は、春とは言うものの前半は冬が頻繁に顔を出します。桜の開花も満開も、顔を出す冬に翻弄されます。自然観察週報の4月第1週には、つぎのような記述があります。

週の始めからぐずついた天気となり、満開を迎えていたソメイヨシノは雨風で花が散ってしまった。(1998年)

すっかり暖かくなり、ソメイヨシノも満開になりました。(2005年)

ソメイヨシノが満開になってから低温が続いています。桜が長持ちしています。(2006年)

ようやく暖かくなりました。遅れていた桜は、週末に向けて開花が進み、一気に満開になりました。(2011年)

3月まで長引いた寒い冬が終わりました。待ちかねた花がいっせいに咲きだしました。ウメ、アンズ、カワヅザクラ、カンヒザクラ、ソメイヨシノ、コブシ、ハクモクレンが程度の差こそあれ、同時に咲いています。(2012年)

4月の半ば以降は冬の要素はなくなりますが、寒暖・晴雨が入れ替わります。同じ天気や気温が長続きしないというのが、肌感覚の4月です。4月第2週には、つぎのような記述があります。

夏を思わせる日があり、その翌日は冬の寒さでした。17日の朝は雪が降って、畑などが一時真っ白になりました。(2010年)

晴れたり曇ったり、周期的に天気が変わりました。ようやく冬物とさよならできたと思ったら、半袖でちょうどいい日もありました。(2019年)

第3週に、つぎのような記述があります。

冷たい雨の降る日何日もあり、3月並みの肌寒さでした。(2007年)

もう大丈夫と思ったら、また冬のような寒さになりました。ひと雨ごとに、新緑の風景が変化していきます。(2010年)

お天気番組では、早くも「夏日」という言葉が登場しました。晴れた日の日中は夏を思わせる暑さでしたが、週末は3月並みの気温になり震え上がりました。(2019年)

第4週になると初夏の陽気になりますが、こんな年もありました。

結局、涼しいままに4月は終わってしまいました。(2006年)

汗ばむ陽気の日があり、思わずストーブに手を伸ばす朝がありました。(2018年)

## 肌感覚の5月

5月になると冬の要素は完全にはなくなりますが、不安定な春の気象は4月以上に顕著になります。5月第1週には、つぎのような記述があります。

暑かった連休前半から一転して、寒い後半になりました。気温の変動が極端です。(2004年)

冷たい雨が降る肌寒い日のあとは一転して初夏の陽気で、5月らしい変化の激しい気象でした。(2009年)

大気の状態が不安定になることが多く、強風や雷、雹(ひょう)などが発生します。5月第1週には、つぎのような記述があります。

11日に、電車がとまるほどの強風が吹き荒れました。(2007年)

大気の状態が不安定になり、5月6日に関東で強い竜巻が複数発生しました。つくば市などで、大きな被害がありました。(2012年)

大型連休中は、大気の状態が不安定でした。雷が鳴り黒雲が広がり、激しい雨が降った日がありました。(2021年)

5月第2週にも、つぎのような記述があります。

5月15日に時間57mm(鎌ヶ谷市内)という豪雨がありました。大柏川流域で道路が寸断され、台地上でも出水しました。谷筋に建っている自然博物館でも、地下室が浸水しました。(2000年)

先週に続き大気の状態が不安定な状態が何回かありました。落雷や雹(ひょう)、強烈な降雨がありました。(2007年)

初夏の陽気の日もあれば、雷がなったり、雹のような大粒の雨が降ったりと、変化が激しくありました。(2009年)

大気の状態が不安定な状態が続きました。突然の雷と土砂降りの雨の日がありました。(2012年)

5月12日の深夜に台風から変わった温帯低気圧が通過しました。市内でも強風が吹き荒れました。(2015年)

さらに5月第3週でも、

県北部でピンポン玉大のひょうが降って被害がでました。大気状態が不安定な、5月に多い現象です。(2000年)

また、5月第4週で週中に月をまたいだ6月初めにも

青空と強烈な日差し、沸き立つ積雲は、まるで夏の風景でした。大気の状態が不安定で、6月3日には市川市内で雹(ひょう)が降り、梨などの農作物や建物、車にかなりの被害がでました。(2022年)

ただ逆に、こんな年もありました。

5月は不安定な天候のことが多いですが、今年は比較的安定しています。雹が降るような日は、これまでありませんでした。(2016年)

18日間ほぼ雨無しの日が続きました。5月21日の久しぶりの雨は77mm(船橋アメダス)の大雨でした。(2019年)

5月第4週、第5週には梅雨入りする年もあります。

27日に梅雨入りし、統計が残る過去51年で2番目に早く、平年より12日早い入梅でした。(2011年)

花を透明にして観る\*\*\*\*\*

# コスミレ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしましますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしましますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



コスミレの正面

- ・花弁は5枚。上に2枚（上弁）、横に2枚（側弁）、下に1枚（唇弁）。
- ・花弁の間の小さな三角形が萼。
- ・中央から突き出ているのが雌しべ
- ・雄しべは、雌しべを囲むようにある。

コスミレの側面

- ・下にある花弁（唇弁）は後方に袋状に伸びる。袋状の部分を距（きょ）と呼び、中に蜜がたまる。
- ・距のなかに、同じく後方に伸びた雄しべが見える。
- ・雄しべの後方に伸びた部分に蜜腺があり、蜜を分泌する。
- ・よく目立つ上弁を見て飛来した虫は、平らで幅広い唇弁に着地し、花の奥の距にある蜜を吸いに入り込む。この時、雄しべに触れて花粉を付け、あるいは背中につけてきた花粉を雌しべにつける。



## 長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から  
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

### シメ

シメは、ユーラシア大陸に広く分布するアトリの仲間です。日本では、北海道や本州の一部の地域で、繁殖が確認されています。それ以外の地域では、冬に飛来します。長田谷津では、毎年越冬のために10月下旬から11月上旬に飛来し、4月上旬まではよく観察できます。このあたりでは、典型的な冬の鳥のイメージがありますが、意外にも渡去は遅く、個体によっては4月下旬でも見ることができます。春を告げるツバメが軒下で子育てをしている時期でも、まだ越冬地にいるのです。遅くまでいるシメがどこに渡るのか、いつか調べてみたいものです。



「ツイー」や「チッ」という声を覚えると、  
よくみつかります  
(2023年12月26日 長田谷津)

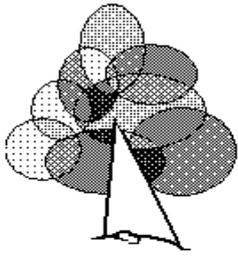
### 渋い！シメの変身

シメに派手な鳥という印象を持つ人は、あまりいないと思います。派手な種類が多い、アトリの仲間の中では、地味な鳥という印象をお持ちの方が多いでしょう。しかし、繁殖期の近づいた4月にシメを見ると、その印象が大きく変わるかもしれません。変化するのは嘴で、冬の間「うすだいたい色」だった嘴が、青みがかった「鉛色」になるのです。10年以上も前ですが、初めて鉛色の嘴になったシメを見たとき、ここまで変わるのか…と衝撃を受けたのを覚えています。

4月の長田谷津では、嘴が鉛色になったシメを観察できます。南から渡ってくる小鳥たちに目を奪われる季節ですが、シメの渋い美しさにも注目です。



美しい鉛色の嘴のシメ  
(2019年4月12日 長田谷津)



## 令和の春の植物景色

2月は、21℃になった日もありました。「桜の開花は早いでしょう」と予想されていきました。3月は、強風・低温・寒暖差が激しかったです。強風のなか、花粉と砂埃で、花粉症ではない私も目薬・ティッシュ・マスクが必需品でした。

3月17日カンヒザクラが咲きました。大きく成長したカワヅザクラの木の花とは違い、濃い色と下向きに咲く花を見ると「これからが春！」と自分では思いません。道端では、どこもホトケノザがいっぱいです。ジンチョウゲの香りもどこからかしてきました。

いつも通る道は、建て替えや分譲で真新しい家が目立ちます。玄関先の植え込みは、シマトネリコ・オリーブ・ミモ

ザ・レモン・ユーカリが多いようです。外構や植栽のはやりでしょうか。違う道を通ってみると、サンシュユ・マンサク・トキワマンサク・アセビが咲いていました。昭和の風情の建物とお庭でした。

ホトケノザの茎が伸び、花が咲きました。ヒメオドリコソウやハコベも出てきました。大野の空き地が一面紫色に見えます。ホトケノザの花が咲いているようです。街路樹の下や、植え込みのユキヤナギもきれいに咲きました。

我が家の庭では、ドクダミとヨモギの芽がいつせいに…地下茎でつながっているし、取り残したのがまた育つと、きりがなし…草は元気だな～と思いました。

(M. M.)

No.54

### 展示室 飼育生物の話題

## マアナゴの餌やり

博物館職員が釣ってきたマアナゴを展示しています。細長い魚はもともと人気がありますが、ウナギと並んで、アナゴは食材として子どもたちでも知っている魚です。自分が食べている食材がどういう姿の生き物なのか、これを知ることは「命をいただく」という食育にもつながる内容です。

最初は姿がよく見えるようにと、水槽内に隠れる場所を作りませんでした。確かにマアナゴはよく見えましたが、餌はまったく受け付けませんでした。いろいろ試してもダメで、結局、落ち着ける隠れ場所を設けました。途端に食べるようになり、ピンセットから直接餌を食べるまでになりました(写真)。このまま慣らせば、人が近づくと餌の時間、と出てきてくれるようになるかもしれません。



# わたしの 観察ノート

## ◆長田谷津より

- ・もみじ山の、枯れた立派なコナラにアカゲラが来ていました(1/31)。太い幹、周囲に落ちているたくさんの枝、上空にぽっかり空いた空間。見事な死にざまのコナラが、多くの命を支えています。自然界では、死は他者の生に直結しています。
- ・谷の上空は北風が吹き抜けましたが、谷底に風は入らず、前日の高気温の影響もあって湿地は暖かでした(2/16)。キタテハが飛び回っていました。

## ◆国府台より

- ・紅梅とカワヅザクラが咲いているお庭に、メジロが来ていました(2/24)。花にくちばしを入れて、忙しそうに蜜を吸っていました。見ていたら、ヒヨドリも来ました。冬に花が咲く花木には、この2種類がよくやってきます。

以上 金子謙一(自然博物館)

## ◆三番瀬より

- ・干潟に降りているシギ・チドリ類を見ていると、一瞬にしてすべて飛び立ちました(1/17)。上空を見上げると若いハヤブサが飛んでいました。

## ◆じゅん菜池緑地より

- ・じゅん菜池名物のハシビロガモのぐるぐる採食を見ることができました(2/8)。20個体ほどが、渦を巻くように泳ぎながら餌を探していました。

以上 稲村優一(自然博物館)

## ◆中山法華経寺より

- ・竜王池でカルガモ19羽に混じって、マガモのオス3羽とメス1羽が水面で採食していた(12/14)。聖教殿脇のムクノキの枝に、シロハラとツグミが1羽ずつ止まり、実を食べていた。

- ・初詣に訪れた法華経寺で、竜王池の杭に止まるカワセミのメスを1羽、見ることができた(1/1)。元旦早々、おみくじで大吉を引いた気分。
- ・聖教殿の前に、モズのオスとシロハラが1羽ずつ(1/18)。ウグイスの地鳴きが聞こえた。

## ◆原木より

- ・妙行寺の池で、コガモのオスが2羽水浴(1/7)。本堂裏の広場で、イソシギが1羽歩いていた。真間川には、アオサギ、カイツブリ、カワウ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバン。ウミアイサのメスも1羽浮いていたが、目の周囲が黒い。ハクセキレイの個体数が多く、セグロセキレイとタヒバリも1羽ずつ見られた。

## ◆北方町遊水地より

- ・護岸にカワセミが1羽、止まっていた(1/15)。

## ◆北方1丁目より

- ・真間川にカワセミのメスが1羽(1/15)。護岸に止まっていたが、飛び立って排水口の中に入り込んだ。

## ◆京成八幡駅より

- ・6時23分、ようやく明るくなり始めた頃に駅の南側で、イソヒヨドリのさえずりが聴こえた(1/23)。
- ・6時23分、駅の南側に、きれいなイソヒヨドリのオスが1羽(3/4)。

以上 田中利彦さん(船橋市在住)

晴れて気持ちの良い、春のような日が多い、暖かい冬でした。雪かきが必要ない程度の雪が2度降り、すぐ解けてしまいました。

# ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



## ホームページの内容

- ・ ご利用案内
- ・ 展示紹介、詳しい解説
- ・ 行事案内
- ・ 自然観察の記録、オリジナル動画
- ・ 博物館だより、出版物のご案内



## ＜行事のご案内＞

長田谷津は、  
大町公園の自然観察園の  
もともとの呼び名です。

### ○長田谷津散策会(申し込み不要・荒天中止)

季節の風景や動植物を楽しみながら、  
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時  
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

### ○湿地の環境整備を

お手伝いしていただきませんか  
(要問合せ・荒天中止)

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。  
たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、  
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時  
解散：集合と同じ場所で 正午

### 初参加の方は

- ・ ・ ・ お電話で博物館までお問合せください。
- 湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
4月	20日 土曜日	おやすみ
5月	19日 日曜日	26日 日曜日
6月	15日 土曜日	23日 日曜日
7月	14日 日曜日	おやすみ
8月	10日 土曜日	おやすみ
9月	15日 日曜日	29日 日曜日
10月	19日 土曜日	27日 日曜日
11月	17日 日曜日	24日 日曜日
12月	14日 土曜日	22日 日曜日
1月	19日 日曜日	26日 日曜日
2月	15日 土曜日	23日 日曜日
3月	16日 日曜日	23日 日曜日

第37巻 第1号 (通巻第211号)

令和6年4月1日 発行

編集・発行/市川市川自然博物館  
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477